

フォルマシオン・ミュージカルの教材分析及び その可能性について

加 納 暁 子

(長崎大学大学院教育学研究科)

Analysis of textbooks on Formation Musicale and its possibility

Akiko KANO

I. はじめに

音楽科における読譜に関係する事項として、学習指導要領において小学校第1,2学年では、「階名で模唱したり暗唱したりする」¹⁾「リズム譜などを見たりして演奏する」²⁾、第3,4学年では「ハ長調の楽譜を見たりして歌う(演奏する)」³⁾、第5,6学年では「ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌う(演奏する)」⁴⁾とある。そして、中学校になれば、「1#や1b程度をもった調号の楽譜の視唱や視奏に慣れさせる」⁵⁾とある。しかし、現状では小学校の先生によると、学年が上がるにつれて読譜力に差がついてきて、中学校の先生によると、読譜力の差が著しく、指導が難しくなるという意見が聞かれる。楽譜に書いてあることが皆目理解できなくなると、音楽の時間も退屈な時間と化すであろう。読譜指導に授業の大半を費やすことは望ましくないが、小学校の第1学年から少しずつ学習すれば、小中学校の9年間で基礎的な読譜力が身に付き、後の人生においても学びを生かすことが出来るのではないかと考える。

音や音名の学習において知られているものでは、音と体の動きを結び付けたりリズムや、ハンドサイン、移動ド唱法などがあるが、本稿ではフランスのソルフェージュとして採用されている「フォルマシオン・ミュージカル」について分析を試みる。「フォルマシオン・ミュージカル」はコンセルヴァトワールに入学するためのソルフェージュであるため、学校の音楽の授業に直接適用するには無理がある。そのため、「フォルマシオン・ミュージカル」から得られるエッセンスを参考に、日本の学校音楽教育が抱える問題の解決への可能性について考察していく。

II. フォルマシオン・ミュージカルとは

「フォルマシオン・ミュージカル(総合的な音楽形成科目)」とはフランスにおいて1978年、ソルフェージュ教育の改革によって改められたものである。泉谷によればフォルマシオン・ミュージカルとは「これまでのソルフェージュ教育を根底から否定し覆すものではなく、ソルフェージュ教育(知識)と器楽教育(表現)の間に広がった溝を回復することを大きな課題とし、また実作品をソルフェージュ課題の中にできる限り取り上げることで、音楽作品の理解と表現をより深め、身につけることを目標とした教授法の改善」⁶⁾とある。音楽における理論や知識が、演習問題をこなすことによって習得されるのではなく、実際

の音楽作品を題材とし、「リズム練習」「クレ読み」「聴音」「視唱」「音楽史」「様式分析」「鍵盤和声」「伴奏付け」「即興」といった活動を通して、あらゆる音楽的要素を学習する総合教育といえる。

フォルマシオン・ミュージカルのカリキュラム、及び学習内容に関しては、泉谷が「Études de Formation Musicale」の分析により明らかにしている⁷⁾。本稿では、そのカリキュラムと学習内容の概要について要約を行い、以下に示す。

表1 フォルマシオン・ミュージカルのカリキュラムと学習内容

第1課程			
学習段階	年齢	修学年限	学習内容
音楽覚醒クラス	5歳 (幼稚園年長クラス)	1年	<p>声とメロディ</p> <p>I. 音楽作品の主題と歌の練習による声の教育。発声の遊び(音色や強弱の変化等)。</p> <p>II. 旋律的フレーズによる反復、記憶、移調。フレーズの表現(強弱、リズム、旋法か長短調か)に心を配る。フレーズの高揚感や休止の感覚。</p> <p>即興:可能な限り自由に個々の表現を探し求める。音響物の創造と探究。自由な声の表現。質問と答え(完全終止の概念)。</p> <p>音符の読譜</p> <p>準備段階:身振りと言を結び付ける。表記法の意味と関係性のある遊び。五線譜に“丸いボンボン”を置く。</p> <p>留意事項:楽譜の読み方と記譜の方法を関連付ける。心の中で読む時間を準備する。複数の音の名前をつなげて読める。遊びながら視覚的に音の幅の感覚に慣れる。1音1音だけで認識することは避ける。重ねられた音を覚える。</p> <p>リズム:拍とリズムを区別する。声に出してリズムを表現する。弱拍と強拍の解釈。子どもの自然な速度(心拍数)を理解する。休符の概念。強拍の周期性。アウフタクト。3拍子の感覚。</p> <p>聴き取り:音の動向・長さ・強さと変化(身振りと言を結び付ける)、楽器の音色の認識、口頭での歌・リズムの即答。</p>
入門1	6歳 (小学校第1学年)	1~4年 (入門1から3を通して)	<p>声とメロディ</p> <p>I. 歌を通しての表現 スタッカート、レガート、クレッシェンド・ディミヌエンド、声の遊び(ある旋律に引きずられないように他の音を保つ等)。</p> <p>II. フレーズの反復・記憶・移調。</p> <p>III. 音程の名称 音名なしで音程をとる。感覚的な移調。和声的な音程の固有の響きと機能性。</p> <p>即興:前半を歌ってから後半を即興しフレーズを終わらせる。リズムの即興。伴奏型を聴いてメロディを即興。質問と答え(半終止)。</p> <p>音符の読譜:1年目の学習方法の繰り返し。リズム譜を、音程を付けずに読む。階名でリズム無しで歌う。休符やフレーズと合図を結び付ける。</p> <p>リズム:1年目の学習の続き。リズムのカノン。遊び(他のリズムグループにつられない)。実作品の書き取り(不規則なリズムの発見)。新しいリズムグループの聴き取りと読譜。いくつかのリズムグループの反復、及び結びつき。初歩のタイ。書き取り(音符無しで休符や音の長さを含む)。</p>

			聴き取り：音の長さ・強さ・音色・高さ・方向（身振りと関連）。相違の判別。リズム，音楽の流れ，強さ，ニュアンスも同時に表記できる。
入門2 入門3	7～8 歳		<p><u>声とメロディ</u></p> <p>I. 歌を通しての表現（実作品に由来する単純な主題，2声カノン），声の遊び（複雑，多様性）。</p> <p>II. 反復・記憶・移調（より長いフレーズ，二部形式，ロンド形式，調性の感覚，転調と緊張の感覚）</p> <p>III. 音程の名称（聴覚，声の表現）</p> <p><u>即興</u>：形式にあてはめる。（ABA，ロンド，主題と変奏，ジャズ・コーラス。後に楽器を用いる。）</p> <p><u>音符の読譜</u>：旋律とリズムが結合した読譜。歌う読譜。</p> <p><u>リズム</u>：長い形式のもの，3拍子。新しいリズム（シンコペーション等）の獲得。タイ。リズムの書き取り。</p> <p><u>聴き取り</u>：書き取りの正確さ。長く，複雑な音楽作品の一部分の記憶。</p> <p>→次の課程への進級試験（口述と筆記）</p>
第2課程			
学習段階	年齢	修学年限	学習内容
準備コース	9～10 歳 (小学校第4 学年又は 第5 学年)	3～5年 (準備 コース， 初級コース， 中級 コース合 わせて)	<p>【口述】</p> <p><u>音符の読譜</u>：ト音記号とヘ音記号（テノール記号又はアルト記号）</p> <p><u>リズムの読譜</u>：口頭，叩く，又は音程を付けずに音名を読む。</p> <p><u>器楽の読譜</u>：いくつかの音，又は打楽器でのリズム読譜。</p> <p><u>歌う読譜</u>：伴奏付き，二声。</p> <p><u>伴奏無し</u>のイントネーション⑧：全ての長音程，短音程，完全音程。加えて，増2度，増4度，減5度。</p> <p><u>記憶</u>：単純なもの複雑なもの。</p> <p><u>移調</u>：短いフレーズの耳からの移調。</p> <p><u>即興</u>：声と楽器（第1課程の学習の続き）</p> <p><u>教師のピアノでなされる転調の練習</u>：2度の上行又は下行，3度の上行又は下行。</p> <p>【筆記】</p> <p><u>書き取り</u>：一声。二声の手ほどき。（様々な楽器で）</p> <p><u>リズムの書き取り，間違い探しの練習</u></p> <p><u>実践的理論</u>：長三和音，短三和音，属七。</p> <p><u>分析</u>：旋律的フレーズ（特徴，アクセント），基本的な形式（ロンド）。</p> <p><u>音色の確認</u></p> <p><u>録音の聴き取り</u>（少なくとも6～8つ）</p>
初級コース			<p>【口述】</p> <p><u>音程無し</u>の読譜：ト音記号，ヘ音記号，テノール記号，アルト記号（トリオ，カルテット）。</p> <p><u>リズムの読譜</u>：口頭，叩く，又は音程を付けずに音名を読む。</p> <p><u>器楽の読譜</u>：準備コースと同様。</p> <p><u>読む移調</u>：臨時記号無しで，よく学習された音部記号で。</p> <p><u>歌う読譜</u>：伴奏付きのもの，ト音記号とヘ音記号のもの。二声。</p>

		<p>イントネーション：(伴奏無しで正しい音程で) 記憶：準備コースと同様。(フレーズ, 又はリズム) 移調：準備コースと同様。耳からの移調。 即興：準備コースと同様。</p> <p>【筆記】 <u>一声の書き取り</u>：ト音記号とヘ音記号。 <u>単純な二声の書き取り</u>：ト音記号とヘ音記号, 2つのト音記号又は2つのヘ音記号。 <u>リズムの書き取り</u> <u>2つと3つの音の書き取り</u>：長三和音と短三和音(基本形), 属七, 開離⁹⁾。 <u>間違い探し, 記憶</u>(書かれたフレーズの) <u>転調の練習</u>：準備コースと同様。 <u>実践的な理論</u> <u>分析</u>：旋律的フレーズ, 基本的な形式(メヌエット) <u>音色の認識, 録音の聴き取り</u>(少なくとも6~8つ)</p>
中級コース		<p>【口述】 <u>音程無しの読譜</u>：ト音記号, ヘ音記号, テノール記号, アルト記号, ソプラノ記号(準備コースと同様, トリオとカルテット)。 <u>リズムの読譜</u>：拍子の変化。5拍子と7拍子。 <u>器楽の読譜, 読む移調と歌う移調</u> <u>歌う読譜</u>：一声と二声。 記憶：初級コースと同様。 再現：声, 楽器で。 即興：(声と楽器)実践により感覚を磨く。</p> <p>【筆記】 <u>一声の書き取り</u>：ト音記号とヘ音記号(より音域を広げて) <u>二声の書き取り</u>(ピアノ又は他の楽器) <u>和声の書き取り</u>：密集, 2~4つの音。属七と転回形。 <u>3つの音の寄せ集め</u>(開離) <u>リズムの書き取り</u>：単声, 次に二声。 <u>間違い探し, 移調して書く</u> 記憶したものを<u>書く, 実践的な理論</u> <u>分析</u>：数字付き和声, 基本形, 属七と転回形。作品分析。 <u>録音の聴き取りと確認</u> →次の課程への進級試験(口述と筆記)</p>
第3課程		
修了コース	3年まで	<p>【口述】 <u>5つの音部記号の読譜</u>：器楽の楽譜とオーケストラのスコアのシークエンス(配列)。 <u>器楽の読譜</u>：演奏の指示(テンポ, フレージング等)が有るものと無いもの。 <u>リズムの読譜</u>：器楽によるリズムの読譜。 <u>2つの楽器による読譜</u> 記憶：歌われた, 又は演奏された作品の一部分。 再現：読譜の後に器楽で再現する。 <u>器楽の認識, 声又は器楽の即興</u></p>

			<p>【筆記】</p> <p>書き取り：一声，二声，三声の書き取り。</p> <p>和声の寄せ集め（開離）</p> <p>間違い探し（作品からのシークエンス）</p> <p>認識と再現：作品中の主題の書き取り，再現</p> <p>実践的な理論，旋律と形式に関する分析</p> <p>→フォルマシオン・ミュージカル修了試験</p>
専門課程			
上級コース		（指定無し）	<p>【口述】</p> <p>音程無しの読譜：7つの音部記号。</p> <p>リズムの読譜：楽器と口頭（あらゆる拍子，変拍子等）。</p> <p>再現：リズムカルで旋律的な形式（口頭又は楽器）。</p> <p>移調：読む移調と歌う移調。移調楽器（例：ヴァイオリンでB管のクラリネットのパートを演奏する）。</p> <p>歌う読譜：ト音記号，又はヘ音記号。</p> <p>【筆記】</p> <p>一声の書き取り：ト音記号又はヘ音記号（広い音域，あらゆる調性，小節線の有るものや無いもの）。</p> <p>二声と三声の器楽の書き取り</p> <p>和音（密集・開離）の書き取り</p> <p>間違い探し</p> <p>作品から聴き取られた主題の認識と再現</p> <p>リズムの書き取り</p> <p>理論：全体の復習（無調のもの，複調のもの）。</p> <p>分析：数字付き和声，非和声音，作品の旋律と形式の分析。</p> <p>→メダル取得試験。試験の結果により，国立高等音楽院の試験科目が免除される。</p>

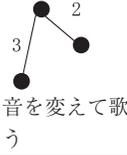
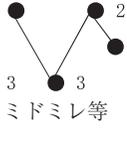
Ⅲ. フォルマシオン・ミュージカルの教材分析

これまでフォルマシオン・ミュージカルのカリキュラムと学習内容について要約を行ったが，次に，フォルマシオン・ミュージカルで使用されている教材について分析を行う。出版されている教材は多種多様でそれぞれに特色がある。これまでの教材研究として，松永は *Solfier pour mieux jouer* (Baraud, Sylvie 著, Gérard Billaudot 出版, 全4巻) より第1巻の分析を行っている¹⁰⁾。また，長崎は M.H.Siciliano 著による *Ma 1^{ere} année de formation musicale* (1995), *On aime la F.M. 1^{re} Année* (2004), *Faisons de la musique en F.M. Vol.1* (2014) の分析を行い，出版年による内容の相違点の比較を行っている¹¹⁾。

本稿では *Hector l'apprenti musicien* (Sylvie Débéda 他著, Van de Velde 出版, 全5巻, 2001年) を取り上げ，指導内容の分析を試み，日本の学校音楽教育への応用の可能性について考察を行う。*Hector l'apprenti musicien* は他の教材と比較すると，すべて実際の音楽作品をもとに構成され，作曲家の肖像画を含むイラストも多い。また，一作品につき見開き2ページを使用して楽譜と練習問題があり，見やすく書き込みやすい構成になっている。第1巻は増音程が扱われていないため，概ね表1の第1課程の内容を扱っているといえる。日本の学校音楽教育への応用の可能性を考える際，より初歩段階について精査した方が良いと思われるため，第1巻の分析を行う。分析の観点は，表1の第1課程の学

習内容より, 「声とメロディ」「即興」「音符の読譜」「リズム」「聴き取り」とする。

表2 *Hector l'apprenti musicien* Vol. 1 の概要と分析

第1部					
使用曲	声とメロディ	即興	音符の読譜	リズム	聴き取り
秋 第1楽章 (Vivaldi)				4分の4拍子 を感じ取る	弦楽器, 音の強 弱, 音の高低
Colchiques dans les prés (野原のサフラン)	節と繰り返し を感じ取る		ト音記号 ドとレを歌う	8分の3拍子 に合わせて動 く	音の上行, 下行 を感じ取る
Le Vent Souffle (風が吹く)	カノン ド～ソまでの 順次進行	図を見て発声 等	ド～ソまでを歌 う 2分音符	4分の4拍子 の拍を感じ取 る	4分音符と2分 音符 ドレミを書く
Le Carillon de Vendôme (ヴァン ドームの鐘)	ラ～ド, フレ ーズを意識			4分の2拍子 の拍を感じ取 る	4分音符と2分 音符, 同じ音域 を使った楽曲の 書き取りと歌唱
コントラスツ (Bartók)			4分休符, 2分 休符, 全休符, 全音符	曲に合わせて 手拍子でアン サンプル	構成楽器 (Pf, Vn, Cl)
子守唄 (H.Dès)	2度と3度を 意識して歌う		付点2分音符 2度音程 (ド レ) 3度音程 (ド ミ)	4分の3拍子 の拍を感じ取 る 3拍子のリズ ムアンサンプ ル	教師がピアノで 弾いた, 2度音 程, 3度音程を 書き取る
第2部					
プロムナード (Moussorgsky)			オクターブ ♪ (8分音符)	4分の5拍 子, 4分の6 拍子の拍を感 じ取る	金管楽器
コウライウグイス (=ちょうちょう)	ド～ソまでの 音域, 2度と 3度を意識し て歌う		歌唱とリズム打 ち (2声) の練 習	♪と♪のリズ ム練習	♪♪を, 拍を感 じながら書く
Voděnka Studena (モラヴィア民謡)	クレッシェン ドとディミヌ エンド, 質問 と応答の形式	質問と応答の 形式を即興で 歌う	ドミソを歌って 長三和音 (主和 音) を理解する		
Soum, Soum (ベア ルンの子守唄)	強弱, rit.フェ ルマータに気 を付けて歌う		2度音程 3度音程	タイ	写譜 (一部) 継続か終止の感 覚

ああ、お母さん、貴女に申しませう (きらきら星変奏曲 Mozart)	クレッシェンドとディミヌエンド		第1変奏：3度と2度の和音 8分休符と8分音符		旋律の穴埋め→ 歌う 変奏曲
第3部					
タンブラン (Rameau)			4つの16分音符 # (シャープ)	拍に合わせて踊る	 セーニョ記号
Guillô, Prends ton Tambourin (ブルゴーニュのクリスマス)	歌詞の発音の楽しさ (パティパタパン等)		4つの16分音符と4分音符 5度音程のオスティナート	 拍を感じる	へ音記号 オスティナート (レトラ)
Laine, Laine (毛糸)	2度と3度を意識して歌う		b (フラット)	♪, ♪, 4分休符, 4つの16分音符のリズム練習	2度と3度の聴き取り, リズムの書き取り
Les Pendules (時計)	カノン形式		ハ長調の主和音の第1転回形 (ミソド)	♪, ♪, 4つの16分音符を含むリズム練習	ト音記号からヘ音記号への書き換え
ピアノソナタ第3番 (Beethoven)	1~4小節の右手の旋律を2声で歌う		ハ長調の音階の半音 (ミファとシド) を学ぶ		1~12小節の穴埋め 楽曲分析
第4部					
おもちゃのシンフォニーよりメヌエット (L.Mozart)	スコアを歌う			弦パート, 管パートのリズム譜アンサンブル	スコアを読む
Le Verdon (B.Sanchez)	ホ短調の主和音を歌う		 アウフタクト ホ短調	 リズムアンサンブル	主旋律を1オクターブ下げて記譜
ピアノのためのメヌエット (D41 No.2) (Schubert)	主旋律を歌う (フレーズ, 強弱)		臨時記号 (# b ♯)	膝や手を使って3拍子を打つ	# b ♯, 半音の理解, フォルティッシモ
La Petite Rivière (小川) (Tchaikovsky)	ハ長調とニ短調の音階, 主和音を歌う		ハ長調とニ短調 ニ短調の導音 (cis)		ハ長調からニ短調への転調, 主旋律の穴埋め
マズルカ (Op.68-3) (Chopin)	階名で歌う (強弱, アクセント)			3拍子を打つ, 速度表記 (Allegro)	旋律の穴埋め 楽曲分析
第5部					
タンホイザー (Wagner)	ハ長調に移調したものを歌う (3声)		 3連音符		3連音符 4度音程

À Petits Pas, À Petit Trot (小さい足音, 小さい早足)	スタッカートを意識して歌う		5度, 4度, 3度の和音 (2声で歌う)	♪, ♪, 3連音符のリズム打ち	5度, 4度, 3度の音程
Nous Sommes Tous Venus (ヴィヴァレのシャンソン)	拍子の変化, 5度, ト長調 (fis) に注意して歌う		1, 2, 3, 4, 5, 8度の和音 (2声で歌う)		拍子の変化 (2/4 と 3/4), 移調 (書き取り), ト長調

IV. 分析結果

これまで、*Hector l'apprenti musicien* Vol. 1 について、5つの観点から指導内容について分析を行った。分析結果を5つの観点から概観してまとめると、以下のようになる。声とメロディ：順次進行から始まり、2度と3度の音程の学習を徹底させている。フレーズや強弱、スタッカートといった表現にも留意する。第3部のベートーヴェンのピアノソナタから、クラシックの作品を用いた歌唱が試みられている。第4部からは、三和音の響き、ハ長調以外の歌唱が取り入れられている。

即興：全体的に課題は少なかったものの、第1部のように2度と3度の音程を図式化し、冒頭の音を変えて歌うことによって、音程を相対的に捉え、移調の能力が養われるといえる。また、「質問と応答」は最も基本的な音楽形式であり、フォルマシオン・ミュージカルの第1課程の指導内容を組み込んでいる。

音符の読譜：まずはハ長調の音階を学び、その後、休符、2度と3度の音程、三和音へと続いていく、音符も、4分音符、2分音符、8分音符、16分音符、付点音符、3連音符と系統立てられている。調性は第3部からト長調、ヘ長調、ホ短調、ニ短調と広がっていく。常に、歌唱、リズム練習、聴き取りや書き取りといった活動と関連させながら学習する。リズム：手拍子や膝打ちなど、常に体を使ったリズムアンサンブルを通して学ぶ。クラシック音楽の作品も、リズム譜にしてリズム打ちを試みている。拍子は4分の4拍子、4分の2拍子、4分の3拍子と系統立てられているが、3拍子の課題の方が後から提示されている。基本的な拍子の他に、変拍子の曲も積極的に取り入れている。

聴き取り：音符の読譜と連動しており、聴き取って歌う、または書くといった課題を通して、学習の定着を図っている。弦楽器、管楽器の音色の聴き取りも早い段階から学ぶ。穴埋めの課題（譜例1）は、符幹やリズムのヒントが予め書かれていたり、反復される音やフレーズにはヒントがないなどの工夫がなされている。楽曲分析とは、フレーズ、曲の印象が変化するところ、臨時記号、強弱などの項目が提示され、子どもがその項目を曲中で探したり、考えたりすることによって、これまで学んだことの復習や、曲の構造や印象を捉え、演奏表現につなげられるようなシステムになっている。

譜例1 きらきら星変奏曲における穴埋めの課題¹²⁾



5つの項目に分けて分析を行ったが、各課題の中で扱われている指導内容は、いくつかの項目と関連させながら扱われているため、明確に分類することは困難であった。様々な活動を通して学習を定着させるとともに、特に多声の歌唱を通して和声の感覚を早期に養うこと、聴き取り（インプット）と書き取り（アウトプット）及びフィードバックは有効な学習方法であるといえる。

V. 日本の音楽の教科書との比較

これまで、フォルマシオン・ミュージカルの教材について分析を行ってきたが、日本の音楽の教科書と比較をして、日本の学校音楽教育におけるソルフェージュ教育への応用の可能性と展望について考察する。教育芸術社の教科書と、*Hector l'apprenti musicien*（以下、*Hector*）に掲載されている曲で共通している「ちょうちょう」と「きらきらぼし」（1年生）、更に教育芸術社の教科書より「ひのまる」「かたつむり」（1年生）、「ドレミのうた」（2年生）から考えていく。

「ちょうちょう」

教育芸術社の教科書では、楽譜は掲載されず、巻末に歌詞が縦書きに掲載されているのみである。教師やCDによる模唱や暗唱を前提としているためであるが、この状態では教師の裁量に任されており、読譜の学習は難しい。*Hector*では「コウライウグイス」にあたるが、楽譜が掲載されていれば、2度と3度の音程を意識した歌唱、♪と」のリズムについて拍を意識したりリズム練習や書き取りといった指導内容が可能となる。

「きらきらぼし」

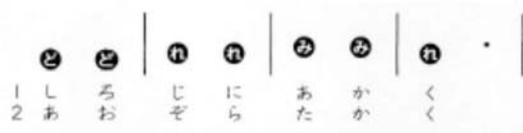
教育芸術社の教科書では、簡易楽譜で記載されている（譜例2）。音符の中に白文字で音名が書いてある点は良いと思われるが、二線の簡易楽譜であると、五線譜が使用された時に、もう一度覚えなおさなければならない。一方、*Hector*では同じ音が2つ続く規則性を予測して書き取りを行わせたり（譜例1参照）、モーツァルトの原曲より第1変奏までを聴かせ、テーマの旋律を探したり、装飾である2度や3度の和音について響きを学ぶ。

譜例2 きらきらぼしの楽譜¹³⁾



「ひのまる」

共通教材であるが、楽譜に関しては「きらきらぼし」よりも更に簡素化されている（譜例3）。もう少し実態に即した楽譜の方が望ましいのではないかとと思われる。「ひのまる」も同じ音が2つ続く規則性があるため、2拍目の音符は予測して五線譜に書く学習が可能である。

譜例3 ひのまるの楽譜¹⁴⁾

「かたつむり」

一方、「かたつむり」は通常の五線譜で書かれている。冒頭の付点8分音符と16分音符、続いて2つの8分音符は、*Hector*であれば、第4部の「おもちゃのシンフォニー」に匹敵し、厳密に理解して歌唱しようとするれば簡単な曲ではない。9小節目の「角出せ〜」の部分も4度音程で意識して歌う必要があり、3度音程や順次進行と比較させた歌唱練習が求められる。

「ドレミのうた」

教育芸術社では、2年生の教科書に掲載されているが、歌詞のみで楽譜は掲載されていない。しかし、この曲は「ドはドーナツのド」と、順番に音階が上がって、音名を学ぶには適している曲である。教科書では一点ハ音から二点ニ音までを縦に並べた絵で、指を差しながら歌うように指示されているが、この曲で冒頭の音（一点ハ音から一点ロ音）を五線譜に書く学習がない点は惜まれる。

VI. 考察

本稿では、フォルマシオン・ミュージカルのカリキュラムと学習内容、教材分析、日本の音楽の教科書との比較を行ってきた。フォルマシオン・ミュージカルで扱われている多様な学習方法のうち、日本の音楽教育に足りていないものは、和声の学習と書き取りではないかと思われる。三和音の響きを早期から体感させる点は、ヨーロッパならではといえる。日本では、合唱を行う際、他のパートにつられるとして、耳を塞いで練習している光景をよく見るが、これは逆効果である。他者の歌声を聴き、合わせることによって美しいハーモニーが作られるため、三和音や音の重なりを歌唱によって理解することは大切である。また、書き取りは不足している。現職教員への聞き取り調査を行った際、指導書に階名をすべて付けてほしい、教科書にワーク欄があり、そこへ記入することによって、学びの軌跡が分かるようにして欲しいという意見が得られた¹⁵⁾。音楽の教科書（特に低学年）は美しい写真や楽しいイラストがページの大半を占めており、楽譜は下方に少し掲載されているか、掲載されていない場合も多い。楽譜とともに、学んだことを記入するワーク欄や、フォルマシオン・ミュージカルで見られた穴埋め課題を掲載して取り組んでいくと、自然と音楽能力も向上していくのではないかと思われる。小学校2年生までは、なるべく楽譜など難しいものは取り扱わず、楽しさを強調しているが、小学校低学年の2年間は大変貴重な期間であり、学習能力も高いため、理論や楽譜を難しいもの、音楽の楽しさを損なうものとして決めつけ遠ざけるのではなく、なるべく本来に近い形で提示し、様々な音楽活動を通して、音楽の理解を深めていくことが重要であるといえる。今回は教科書の分析はごく一部に留まったため、今後は実践による検証を行いながら、ソルフェージュ能力の向上

と音楽表現の関係について明らかにする。

注

- 1) 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説音楽編」文部科学省，2018年，p.30
- 2) 同上，p.36
- 3) 同上，p.58及びp.64
- 4) 同上，p.87及びp.93
- 5) 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説音楽編」文部科学省，2018年，p.112
- 6) 泉谷千晶「フランスの『フォルマシオン・ミュージカル』の変遷と改革－1978年以降のソルフェージュ教育の動向－」『青森明の星短期大学紀要』第25号，1999年，p.8
- 7) 泉谷（1999）pp.9～22
- 8) イントネーションとは，歌唱や楽器演奏における個々のピッチの正確さ。奏者の意図した音高が的確に達成されているかどうかをいう。（新訂『標準音楽辞典』音楽之友社，2003年，p.128）
- 9) 4声体において，最低声部を除く上3声が，1オクターブより更に広がって配置されたもの。（新訂『標準音楽辞典』音楽之友社，2003年，p.369）
- 10) 松永朋美「フランスの『フォルマシオン・ミュージカル』にみられる特質－導入期における指導要領および教材の分析を中心に－」『広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学研究紀要』第19号，2007年，pp.113～122
- 11) 長崎結美「『フォルマシオン・ミュージカル』教育内容の変遷に関する一考察－初級者用教材の分析を通して－」『帯広大谷短期大学紀要』第53号，2016，pp.11～18
- 12) “*Hector l'apprenti musicien*” Sylvie Débéda他，Van de Varde，2001年，Vol.1，p.32
- 13) 『小学生のおんがく1』教育芸術社，2000年，p.56
- 14) 同上，p.42
- 15) 2019年，筆者が本学教職大学院に在籍する現職の先生方に行った「音楽科の現状や課題」に関するアンケートの自由記述から引用。

